

大中(大高)数え歌

共作： 栄 尚志(大中6回卒)
石田 揆(大中9回卒)

一つとせ 人里離れた松原の 中に大中(大高)はあるわいな

大きな新川前にして

二つとせ 冬でも夏でも松の色 変わらぬ緑につつまれて

学ぶ生徒は七百(一千)余

三つとせ 皆様ご承知の大中(大高)生 年中一重の破れ服

暑さ寒さにやかまやせぬ

四つとせ 夜の外出禁じられ 昼でも出るときや制服を

襟の破れ服着て出ます

五つとせ 一番むずかし数学は 一週間にや十(七)時間

落第するのもこれが為

六つとせ むずかし試験の問題に 頭なやます甲斐もなく

やがて終りのかねが鳴る

七つとせ なんのかんのと理屈言う 上級生の面憎くさ

そのくせ教師にや叱られる

八つとせ やんちゃするのも二年まで 三年なればニキビ面

大人ぶるのも憎らしや

みとせ

九つとせ ここに五年(三年)の年つもり あとは卒業待つばかり

憎らし教師もなつかしや

十つとせ とうとう卒業となりました 明日は去ります名瀬町を

さらば皆様健やかに

※十番はゆっくりと歌う

